平成19年度 事務事業 評 [様式1] 価 表 平成19年4月4日 記入年月 記入 者 連絡先 2683 課 平成18年度部名 保健福祉部 名 障害福祉課 課長名 篠崎 正義 名 課長名 平成19年度部名 福祉部 課 障害福祉課 原 修 事 務 事 業 名 障害者支援センター施設管理運営事業 予算上の事務事業名 施設管理運営費 1 総合計画における位置づけ 施策コー 11310 標 「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして 政 策 名 第1章 安心して生活できる福祉社会をつくります 名第3節 本 施 障害者の自立支援と社会参加 名第1施策 自立した生活を実現するための環境づくり 実施根拠及び関連法令・条例・規則・要綱等 相模原市障害者支援センター条例 障害者自立支援法(旧身体障害者福祉法・旧知的障害者福祉法) 3 個別計画の概要 概要

障害者を主体とした施策を総合的に推進し、 相模原市障害者福祉計画 計画名 サービスを体系的に提供する。実施計画(前期10 ~14、中期15~18、後期19~22) 計画年次 年度~ 22 年度 10 4 事業形態の区分 施設運営 ▼ 5 事業開始年度 平成7年度 •

6 事業概要

(1)事業の目的(何のために行うのか、またはもたらしたい成果)

(2)対象(誰、何)

障害者の自立と社会的活動への参加を促進し、もって障害者の福祉の増進に寄与するために設 障害者 置された、市立障害者支援センター松が丘園の管理運営を行うとともに、就労援助に係る事業、 生活支援に係る事業を実施する。

(3)平成18年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。

第一松が丘園(知的障害者援護施設)

陶芸作業・食品製造作業・企業受注作業・喫茶福祉ショップでの接客作業など一定期間の授産活動を通して、 利用者の就労に対する課題を把握するとともに、面接相談に基づいて利用者の能力・適性に合った事業所の開拓 や職場実習等を実施。

第二松が丘園(身体障害者更生援護施設)

利用期間を限定した通貨型の通所生活支援施設として、就労をはじめとした進路選択や、地域で暮らしていく のに必要な社会性活力を身につけるための支援を実施。

就労援助センター・生活支援センター

就労を促進する上で必要となる各種サービスの提供や、地域で生活を送る上で必要となる各種サービスの提

7 関連事業・類似事業叉は他市の状況

相模原市立けやき体育館管理運営事業

8	事業費の推移					〔単位:千円〕			
年	度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度			
事	業費	116,598	119,903	137,862	167,325	167,325			
	一般財源	103,417	107,311	124,249	153,537	153,537			
	受益者負担金	0	0	0	0	0			
	その他の特定財源	13,181	12,592	13,613	13,788	13,788			
人	件費の合計	2,421	2,415	2,415	2,415	2,415			
事	業コスト合計	119,019	122,318	140,277	169,740	169,740			
9	9 事業効率・・・活動単位当たりの事業効率								
	事業名 (主たる事業名)	障害者就労・生活	舌支援事業	対象名称 と単位 (件)					
年	度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度			
事	業コスト(主たる事業)	105,195	107,617	108,362	137,825	137,825			
対	象数	4	4	4	4	4			
単	位あたり経費(円)	26,298,750	26,904,250	27,090,500	34,456,250	34,456,250			
前	年 度 比		1.02	1.01	1.27	1.00			

10 活動指標・・・実施した内容(活動)を数値化したもの										
指標名 施設利用者延べ人数 (人) 指標式と 施設利用者延べ人数										
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度					
実 績	666.0	663.0	663.0							
目標	666.0	666.0	666.0	666.0	666.0					
目標達成度(%)	100.0	99.5	99.5							
11 成果指標・・	・もたらしたい♬	成果の達成度を数	女値化したもの							
指標名 と単位 利用者の就労移行率(%) 指標式と (就労者数/利用実人数)×100 指標の説明 施設利用人数に対する就労に移行できた利用者の割合										
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度					
実績	19.4	18.5	20.0							
目 標	19.4	19.4	19.4	19.4	19.4					
目標達成度(%)	100.0	95.4	103.1							
1 2 個別評価	` '									
(1) 妥当性の評価			生に課題がある・							
			ことが義務付けら							
	✓ ・法令、条例に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。									
1 7	✓ ・公益性が高い、または必需性が高い事業である。									
	☑ ・将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。 ☑ ・税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。									
(2) 有効性の評価										
(2) 有効性の評価			性を高める余地がある・C:有効でない〕 ために大きく貢献している							
		☑ ・上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。 ☑ ・課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。								
A			から見て、期待され		たらしている。					
			対象は事業を実施し							
(3) 効率性の評価			生を高める余地が							
		の経費は適正であ								
l A			活用しても、これ以上のコスト節減の余地がない。							
	✓ ・受益者負担や補助等の割合に問題はない。 - 東州 (全) 大学 (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学) (大学)									
✓ ・事業の実施方法や実施体制は適正である。(4) 民間活力または市民協働の導入の可能性〔有・無〕										
(4) 民間活力また				オスナが海して!	\ Z					
			ついて、民間で実施する方が適している。							
無	→業務の一部または全部について、市民協働により推進する方が適している。→業務の一部に民間委託を導入しているが、さらに民間委託を導入しても効果が見込めない。									
	□ ・市で実施する方が民間委託等をするより適している。									
13 総合評価(-	次評価)									
(1) 自動判定結果	;									
		好な状態を維持								
	〔 〕:概ね良好な状況である事業									
	〔 〕:見直しを行う必要がある事業 〔 〕:抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業									
(2) 東米氏答: 11					≐∺□□					
` ′	による評価(今復 ▽┃・拡充・充実		(3) 事業所管課長 ベースとなる現行							
			のと考えるが、先駆	的事業への取り組	みや民間参入の少					
拡充・充実	・現状維持	1,	ない事業実施を検討	し、当該事業分に						
	・見直し	3	実を図るべきものと	考える。						
	・廃止									
14 成果向上及び			15 課題として認識されたこと 市民ニーズの動向を踏まえ、先駆的事業や民間参入の少							
先駆的事業への取り組まれる			ゥ氏―ー人の動向を ない事業実施により							
			きめ細やかな福祉サ							
			うれる。 -							
16 二次評価										
(1) 局内評価会議	による評価 (今	後の方向性) ((2) 二次評価コン	ベント						
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	・拡充・充実		/ VH IM /							
	・現状維持									
	・見直し									
	□ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									